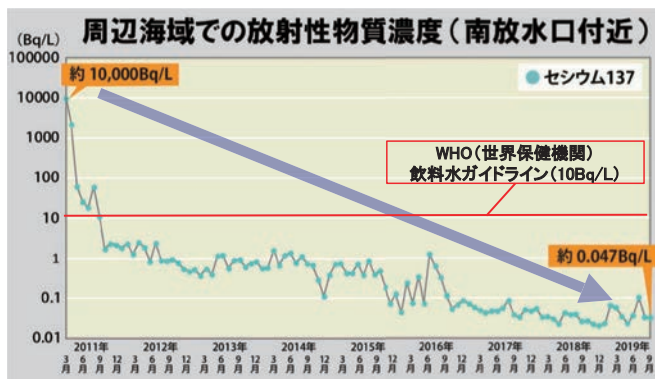


東京電力福島第一原子力発電所の現状

- 様々な対策により、周辺環境への影響は大幅に低減。装備の軽装化など労働環境も改善。
- 現在は安定した状態を維持しており、再臨界(事故の再発)の可能性は限りなく低いと考えられ、万一の際の対策も講じられている。

周辺環境への影響の低減

海洋環境の改善



- 海側遮水壁(図)など汚染水を「漏らさない」取組
→ 汚染水対策により、構内作業員、公衆、環境への影響を低減していることについてIAEAからも評価(2019年1月)。

敷地境界の被ばく線量

- 発電所の敷地境界周辺にモニタリングポストを設置し放射線量を常時測定。
- 敷地境界での、施設全体からの追加的な実効線量(評価値)は、規制値である年間1mSv未満の水準を維持している。

労働環境の改善

一般作業服で作業できるエリアの拡大

除染等の対策により、防護服でなく、一般作業服で作業出来るエリアが **96%**に拡大

- 現在では、多くの方が視察に訪れており、視察時の服装も軽装化されている。



構内での温かい食事の提供



- 2015年8月からは構内の大型休憩所で温かい食事をとることが可能に。

※本頁の写真・図表等の出典は東京電力

より詳しく知りたい方はこちら

廃炉・汚染水ポータルサイト

検索





タブレット先生

さらに福島の今を知りたい方はこちら

タブレット先生

検索

